

**Science Report of Kushiro City Museum**

# 釧路市立博物館報

**NO.436**



**2025.9**

## 「現代版の風土記」地元の郵便史

日本の新式郵便制度は、明治4年3月1日(旧暦・新暦では1871年4月20日)に東京―大阪間で始まり、同年12月には長崎に郵便役所が開設されました。そして、明治5(1872)年7月に函館郵便役所が開設されたことで、北海道にも郵便制度が導入されました。わずか1年余りという驚異的な速さで、ごく一部の地域を除き、日本全国に郵便制度が実施されていったのです。

釧路では、明治7(1874)年12月に郵便取扱役所が設置され、道東の情報通信の拠点として重要な役割を担うようになり、北海道全体に情報通信網が整備されていきました。

国家的事業とはいえ、当時の明治政府には十分な財源や人材がなく、それまでに整備されていた街道や地域の人々の協力を得ることで、迅速な制度の展開が可能となりました。特に北海道では、明治期に本格化した開拓事業により物資や情報の流通が急増し、郵政事業は町のライフラインとしての重要性を一気に高めました。

釧路市立博物館で開催された企画展「釧路の郵便150年」では、多彩な現物資料が展示され、これらの歴史をたどることができる展示となっていました。郵政博物館からも展示資料の協力をさせていただきましたが、その中に、紙芝居「責任」(大日本文化画劇報国会製作、昭和16(1941)年)という資料がありました。遞送人・吉良平治郎さんが吹雪の中で郵便物を守り、命を落とした実話をもとにしたもので、私が博物館に勤め始めた頃、新聞社の取材を受けたことでその存在を知り、案内を担当しました。以後も照会や取材の対応をすることが多く、思い入れの深い資料となっています。この紙芝居は、郵政史や時代背景を知るほどにその重みが増していく資料

でもありました。

私は小学1年から3年までの時期に釧路に住んでいたことがあります。釧路は古くから港町として栄え、本当に自然豊かでありながら整備された町で、真冬の寒さは本土のそれとは世界が異なるような厳しさがありました。

通学路の公園には細氷が現れ、樹氷に覆われた木々が白く佇み、静寂の青空が時を止めたような世界。太陽が照らしているのに大地も空気も溶ける気配など微塵もないファンタジー世界のような美しさが日常にありました。しかし、マフラーを外して深呼吸すれば、喉や肺がチリチリと痛むほどの極寒の世界です。その自然を知る身としては、吉良さんが郵便物を背負って進んだ吹雪の夜を思うだけで、体が緊張して涙がにじみます。それぞれの資料には多くの背景があり、光も影も読み取ることができます。紙芝居「責任」はそれを象徴するような資料です。いろいろな角度から解釈でき、見た人それぞれに多くの思いを呼び起こすことができる雄弁な資料です。

郵便の資料は、日本近代化の時系列と重なり、人々の営み、政治、経済、文化、そしてコミュニティを色濃く映し出しています。その多彩さから、地元の郵便史は現代版の風土記とも言えるかもしれません。

釧路市立博物館を中心に進められている釧路市内・管内の郵便局をつなぐ様々な取り組みは、150年後にどのような歴史を背負って引き継がれているのか、私たちには知ることはできません。しかし、過去の資料を見ながら未来を思い描くこと、現在の私たちの生活の軌跡が、はるか先の人々に何を残せるのかという視点で資料を見ることは、博物館の楽しみ方のひとつと言えるでしょう。

菊池 牧子(郵政博物館学芸員)

## 9月号目次

### 戦後80年ミニ展示「戦争のあった時代」

戦時中の海草スガモの利用	加藤ゆき恵	3
歴史編の開催	戸田 恭司	4
植物標本が繋いだ徳島との縁～植物研究家・笠井文夫氏の足跡を辿る～	加藤ゆき恵	5
企画展「道東考古-縄文の世界-」をふりかえって	澤田 恭平	6
博物館と郵便局の連携を通じて	前川 英樹	8
釧路管内21郵便局の風景印に協力	石川 孝織	10
ロッククリスタル会より除湿機・サーキュレーター寄贈される	土屋 慶丞	11
チャレンケチャシ		11
博物館ニュース		12

〈表紙写真〉 企画展「空に生きる～釧路のツバメたちの暮らし方～」より。ショウドウツバメは国内では北海道のみで繁殖し、集団で子育てする習性を持つツバメで、多いときは数百羽を超します。砂状の崖地を営巣場所とし、写真は足で穴を掘って巣を作っている際の様子です。国内において、近年は数が減ってきている種類の一つです。(貞國 利夫)

## 釧路市立博物館館報

No.436

2025年9月号

2025年(令和7年)9月30日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 北海道釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809 FAX 0154-42-6000

釧路市立博物館Web <https://www.city.kushiro.lg.jp/museum/museum@city.kushiro.lg.jp>

発行責任者 秋葉 薫 編集 貞國 利夫・石川 孝織 印刷 ㈱藤プリント